

【令和3年11月定例会－12月02日-05号】

●国勢調査で使用した調査用品の取扱いについて

●富士ジュニアオーケストラを民間ボランティア運営から公営にして

◆19番（山下いづみ 議員） 私は、さきに通告してあります国勢調査で使用した調査用品の取扱いについてと富士ジュニアオーケストラを民間ボランティア運営から公営にしてはいかがかの2項目について質問いたします。

初めに、国勢調査で使用した調査用品の取扱いについて伺います。

令和2年10月、総務省統計局から地方自治体へ、令和2年国勢調査における調査終了後の調査用品の取扱いについての通知が出されました。従来は市町村事務要領等に基づいて焼却等により処分することとしていましたが、2020年の国勢調査で使用された手提げ袋などの調査用品については、社会的に有効活用する観点から、公的機関またはボランティア団体等と連携し、悪用防止に配慮しつつ、再利用できるというものです。他の自治体で取り組まれた国勢調査用品再利用事業を自治体ホームページやニュースで散見します。SDGs推進が叫ばれている昨今、国勢調査用品の再利用はぜひとも取り組むべきことであると考えます。

そこで、3点質問いたします。

(1)国勢調査用品の有効活用について、①国勢調査で使用された手提げ袋は幾つありますでしょうか。手提げ袋はどのように利活用されているのでしょうか。利用に工夫した点はありますでしょうか。

②国勢調査で使用した下敷き、指導員証・調査員証ケース、筆記具セットはどのように活用されているのでしょうか。

(2)今後、どのような取組をしていくのでしょうか。

次に、富士ジュニアオーケストラを民間ボランティア運営から公営にしてはいかがか、お尋ねします。

富士ジュニアオーケストラは今年14周年を迎えます。本年5月に開催された東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた開催100日前イベントでは、スイス、ラトビア、モンゴルの楽曲演奏で、会場の皆様に感動を届けたことは記憶に新しいことです。豊かな心と協調性を育てる、地域の文化向上に寄与する、音楽を世界に発信することを目的に、2007年に当楽団代表の茅原初子氏発案で、富士市教育委員会と富士市文化振興財団の後援、富士フィルハーモニー管弦楽団の協力の下に発足しました。この14年の間、約300名が巣立ち、若手が育ちつつあります。毎年の定期演奏会では、OB、OGの音大出身者や国内外の富士市及び富士市近郊出身の演奏家のゲスト出演なども実現しています。そして、富士市・富士川町合併記念式典、国際交流の集い、中国嘉興市青少年友好親善使節団、富士市・嘉興市友好都市提携25周年記念式典などで演奏を披露し、本市の式典や国際親善に寄与してきました。運営は発足時からボランティアで行われており、近年では運営人員の方々の高齢化などで存続の危機となっています。

本市の音楽を通じた青少年の育成、芸術文化振興、国際親善の継続、発展のためには、富士ジュニアオーケストラの継続が望まれます。富士ジュニアオーケストラを本市主体の公立運営にしてはいかがでしょうか。

以上、1回目の質問といたします。

○議長（米山享範 議員） 市長。

〔市長 小長井義正君 登壇〕

◎市長（小長井義正 君） 山下議員の御質問にお答えいたします。

初めに、国勢調査で使用した調査用品の取扱いについてのうち、国勢調査用品の有効活用につ

いてのうちの国勢調査で使用された手提げ袋は何個か、手提げ袋はどのように利活用されているのか、利用に工夫した点はあるかについてであります。国勢調査は、大正9年の第1回調査以来、国の最も基本的で重要な統計調査であり、令和2年は第21回目、実施100年の節目の調査として全国で実施されました。本市におきましては、1737の調査区において、指導員174人、調査員1046人の体制で調査を実施いたしました。国から本市に支給された調査用品は手提げ袋が1934個、下敷き、指導員証・調査員証ケース、筆記具セットがそれぞれ1374個でありました。国勢調査における調査終了後の調査用品の取扱いについては、これまで筆記具セット等、一部用品の再利用にとどまり、その他は全て国からの指示に従い処分しておりました。しかしながら、今回の調査では、令和2年10月15日付の総務省統計局からの通知において、調査用品は、原則は焼却等により処分することとするものの、社会的に有効活用する観点から、公的機関またはボランティア団体等と連携し、悪用防止に配慮しつつ、再利用することができることとされました。

前回調査までは、調査終了後、調査用品等を焼却処分するまでの間、返却された大量の手提げ袋などの調査用品、調査書類及び説明書等の保管場所の確保も1つの課題でありました。このため、令和2年国勢調査においては、9月の調査員説明会などで指導員や調査員に対し、調査終了後は、日常生活や業務等で再利用が可能である筆記具セット等については、できるだけ各自での活用を依頼いたしました。結果として、筆記具セットは9割以上、下敷きは5割以上の数を指導員や調査員に活用していただいております。

なお、手提げ袋と指導員証・調査員証ケースは、調査書類の提出の際に、調査書類とともに全てが市に返却されております。これらの返却された調査用品については、今回の国からの通知を受け、調査用品をできるだけ再利用すべく、昨年12月及び本年1月の2回、所管である総務部総務課が調査用品の再利用について、各所属からの希望の取りまとめを行いました。その結果、手提げ袋については、選挙事務用品運搬用、学校間での書類運搬用、テレワークのためのパソコン運搬用、非常持ち出し品用、市主催講座の受講者用など、様々な用途で再利用の希望がありました。

また、本市では、以前から富士市障害者就労機能パワーアップ事業として障害者の就労支援を進めているところでありますが、手提げ袋をトートバッグ等へリメイクすることについて提案がありましたので、障害者就労支援施設に対して手提げ袋を提供し、活用していただいているところであります。手提げ袋は汚れや破損等で再利用できないものを含め、一部は焼却処分いたしました。最終的に約1100個を再利用いたしました。再利用に当たっては、悪用防止のために「令和2年国勢調査」などプリントされた文字には、手提げ袋と同色の剥がれにくい布テープを貼り、見えない状態にするなどの工夫をし、再利用品は現在も多く場面において活用されております。

次に、国勢調査で使用した下敷き、指導員証・調査員証ケース、筆記具セットはどのように活用されているのかについてであります。下敷き、指導員証・調査員証ケースについては、日頃の業務において使用する頻度が多く、総務課の調査用品の取りまとめに対し、多くの再利用の希望がありました。下敷きは、指導員、調査員が調査終了後も各所属において文書回覧のために使用したほか、災害時の被害調査用、講座やイベント等の参加者用、ケースワーカー訪問用などの用途で再利用の希望があり、全て再利用いたしました。指導員証・調査員証ケースは職員の名札ケースとして再利用したほか、地区まちづくりセンターでの講座受講者や小中学校での来校者用などの用途で再利用の希望があり、こちらも全てを再利用いたしました。筆記具セットについては、指導員や調査員が調査終了後もそのまま再利用しております。

次に、今後どのような取組をしていくのかについてであります。調査用品の再利用については、国からの通知において、公共性、社会的信用等を損なうことがないようにすることに留意し、特定の企業、団体、または個人への利益供与や公序良俗に反しないようにすることなどの制

約が設けられております。しかしながら、再生利用及び再利用により廃棄物の発生の削減を図ることは、SDGs達成の観点からも重要であると考えております。このため、今後の国勢調査においても、国からの通知に従い、公的機関、ボランティア団体や福祉団体などの皆様にも情報提供をしながら、積極的に調査用品の再利用を推進してまいります。

次に、富士ジュニアオーケストラを民間ボランティア運営から公営にしていかがかについてですが、富士ジュニアオーケストラは平成19年6月に、青少年がオーケストラ活動を通じ、音楽に親しみ、豊かな心や協調性を育むこと、また、地域文化の向上に寄与するとともに、本市から世界へ音楽を発信することを目的に設立されたと伺っております。設立以来、年1回の定期演奏会の開催に加え、富士市・富士川町合併記念式典での演奏披露や、中国嘉興市へ青少年友好親善使節団として訪問し公演活動を行うなど、市の事業にも数多く御協力いただいております。また、本年5月には、東京オリンピック・パラリンピック富士市推進委員会主催の開催100日前イベントにおいて、スイス、ラトビア、モンゴルの楽曲を演奏し、来場者の皆さんに大きな感動を与えてくれたことは記憶に新しいところであります。

このように、富士ジュニアオーケストラは、長きにわたって子供たちの健全育成や本市の文化芸術の振興に深く関わり、また、活動を通じて多くの若手音楽家を輩出するなど、本市の文化芸術の底上げにも貢献していただきました。これまでの実績や今後ますますの活躍が期待されることから、平成30年度には富士市教育文化スポーツ奨励賞を受賞されております。本市といたしましては、団体からの要望を受け、定期演奏会や団員募集に係る「広報ふじ」への掲載のほか、定期演奏会を後援し、案内チラシの配布を行うなど団体のPRにも協力することで良好な関係を築いてまいりました。

議員から御提案いただきました富士ジュニアオーケストラを民間ボランティア運営から公営にすることについては、会場の確保の面や施設利用料の面などにおいて団体の負担は軽減されることが見込まれます。しかしながら、公営となることで、市民の豊かで柔軟な発想の下に行われてきた団体運営をはじめ、これまで応援してくれていた市民や協賛企業との関係の継続に影響を及ぼすことが懸念されます。また、本市には、文化連盟に加盟している団体のほか、数多くの文化団体があり、その団体の多くは、それぞれに課題を抱えながらも自主的な活動を継続し、本市の文化振興のための活動を続けていただいております。これらのことから、現時点では公営化の考えはありませんが、全国には市や財団が主体となって運営している同様の団体もあっております。このことを踏まえ、本市の文化行政を一体となって進めている富士市文化振興財団を交えながら、他市の状況や事例等を参考に支援の在り方について研究してまいります。

以上であります。

○議長（米山享範 議員） 19番山下議員。

◆19番（山下いづみ 議員） 1回目の答弁をいただきましたので、また順に質問をさせていただきます。

初めに、国勢調査用品の有効活用についてです。これは国のほうから手提げ袋が1934個来て、1100個再利用され、今もそれは処分されずに利用されているのでしょうか。

○議長（米山享範 議員） 総務部長。

◎総務部長（高野浩一 君） おっしゃるとおり、先ほど答弁にもありましたけれども、約1100個は利用して、今でも継続して使われております。それ以外は焼却処分にしたということでございます。

以上でございます。

○議長（米山享範 議員） 19番山下議員。

◆19番（山下いづみ 議員） そうしますと、900個ぐらいは残念ながら焼却処分ということで、再利用ができると案内を出されたのが2020年12月と今年1月、その後はまた職員にお知らせをしてということでしたけれども、最後の再利用できますよといったお知らせから処分するまでの期間は何か月ぐらいあったんでしょうか。何か月ぐらい倉庫にしまって保管してあったんでしょうか。

○議長（米山享範 議員） 総務部長。

◎総務部長（高野浩一 君） 通知をいたしましたのが12月4日と1月12日でございます、あと庁内のイントラネット上にあります不要品取引掲示板に掲載したのが3月10日からになります。破棄したのは、再利用の見込みがないために、今年の8月に入りまして残りの分を廃棄したということでございます。

以上でございます。

○議長（米山享範 議員） 19番山下議員。

◆19番（山下いづみ 議員） 結局900個ぐらい残って、その間に、再利用できるものは再利用したんですけれども、形を作り替えたり、ほかに利用するとか、このまま倉庫に保管しておくのは大変だと焼却した。でも、これは焼却と考える前にもう一ひねり、何かアイデアを出して、それを再利用できるというような話合いなり、アイデアなり、そんな時間は設けられたのでしょうか。

○議長（米山享範 議員） 総務部長。

◎総務部長（高野浩一 君） その間につきましては通知を出したままという状態になっていたのが現実でございます。

以上でございます。

○議長（米山享範 議員） 19番山下議員。

◆19番（山下いづみ 議員） 通知は丁寧に出示していただきましたけれども、そのままだったということが残念だなと思います。

今回のことですが、他市でも再利用ができるということで、いろいろな工夫をされたアイデアを散見したわけです。例えば子育て支援センターで親子でそのまちのキャラクターグッズ——これは唐津市ですが、絵の具とフェルトでオリジナルのバッグを作るであるとか、また、茨木市ではリノベのいばらきプロジェクトということで、不要なものに価値を見つけるというような形で、またオリジナルバッグを作るであるとかしていました。それぞれで最初に国勢調査とは何なのかというような説明があったり、やはり今、SDGsとか物を大切にすることと言われてますから、SDGsの話をした後に楽しくオリジナルバッグを作るような工夫をされていたということです。ですので、国勢調査は毎年あるわけではありませんけれども、先ほど答弁もいただきましたけれども、これから工夫をしていくということはもちろんやっていただきたいし、また、それ以外にいろいろなバッグとか何か物を作ったりというイベントを市で行うことがあると思います。そのときに、作るはいいが、これが終わった後の残ったものはどうなるのかということを考えながら、ぜひやっていただきたいと思います。

これに関しましては、国でそういう通知が出てこれに至ったということですが、実はこれは一市民の声からこういう形になっているんです。もともとそういう市民の声がなければ、国はそのまま焼却処分としてくださいという通知で終わるところでした。国勢調査員として関わった人が、こんなにいいバッグ——今日、皆様のお手元に資料として配付させていただきましたけれども、防水もしっかりとしている、すごい立派なバッグを支給されまして——えっ、これが処分されてしまうのはもったいないという発想から国に働きかけたそうです。そうしたら、国のほうでもいろいろ調整をして、あっ、これは焼却処分等ではなく、悪用されないようにしたならば、

自治体のほうで工夫をして再利用もできる、このように変わっていきました。ですので、私自身もそうですけれども、本当にSDGsで物を大切にするとか、作る責任、使う責任なんていうことを言われている中で、しっかりと知恵を絞ってやっていていただきたいなと思います。

実際にこういうことを追っかけていったときには、作るという喜びであったり、物を大切にするとか、何かを作るというのは手作業をしますよね。これはとても大事だと思います。それに、福祉事業所であるとか、企業であるとか、いろいろな人が関わって環境を大切にすることになっています。そして今回、最初の質問のところで障害者就労があって、トートバッグを作る。今試作品と言っておりますけれども、これはとてもすばらしいなと思いました。多分これは、この存在を知った方がすぐにアクションを起こして、処分されずに済んだものだと思います。バッグにしようとしているものは幾つあるんですか、それは完成されたのか、どうなんでしょうか。

○議長（米山享範 議員） 福祉子ども部長。

◎福祉子ども部長（伊東美加 君） バッグのリメイクにつきましては、たまたま新品のバッグが45個残っておりますので、それを頂いて今、障害者就労支援施設のひめなで加工していただいています。その加工は今、試作品がちょうどできたところでして、大きなバッグを小さなトートバッグとペンケース等に加工して、それをこれからどうしていこうかというような状況となっております。

以上です。

○議長（米山享範 議員） 19番山下議員。

◆19番（山下いづみ 議員） 今答弁いただいた部長がすぐにアクションを起こしていただいて、すばらしいなと思いました。そして、完成できたら、それはどのように販売されていきますか。

○議長（米山享範 議員） 福祉子ども部長。

◎福祉子ども部長（伊東美加 君） 出来上がった製品につきましては――製品と申し上げました。これは販売をしたいと考えております。ただ、この販売価格につきましては、手間賃、工賃は頂きたいとは考えておりますが、その辺りについて、まだ調整をしているところでございます。

以上です。

○議長（米山享範 議員） 19番山下議員。

◆19番（山下いづみ 議員） ぜひ調整していただきたいと思います。そして、これをお披露目する、販売するに当たっては、せっかくですから、これは国勢調査のバッグだったもので、SDGsに基づき、富士市は物を大切にすると、焼却は抑えるというようなことも、チラシなり、ポスターなり、それも何かしらぜひつけていていただきたいと思います。

そしてあと、この件に関しては、焼却されたのは残念でしたけれども、ぜひ富士市から国のほうにちょっと意見を述べていただきたいことがあります。いつもの国勢調査のときには、今回のようなすごく質がよくて、高そうなバッグではないですよね。ぺらぺらなものであったり、紙であったり。それが今回はこのようにすごく立派なものだった。そしてまた、市民の声がなければ焼却処分になっていた。富士市だけでも2000個弱あります。これは富士市だけではない、日本全国ですから、すごい数ですよ。実際にこのように工夫して再利用した自治体もありますし、そうではなく、これはもう利用ができない、でも、保管しておくのも大変だし安全のためにということで、焼却されるところが多いんです。それでは、国の方針として環境政策に反したことをしているのではないのかなと思います。国が国民の税金を使ってこのような質のいいバッグを使って、それぞれの自治体で工夫ができなければ、最終的には焼却になってしまいますよね。なので、ほとんどが焼却されるような形になるものをなぜ今回はこのようにバッグにお金をかけたのか、そ

して、環境という面で考えて決定されたのかということをして市のほうからしっかりと国のほうに言ってもらいたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（米山享範 議員） 総務部長。

◎総務部長（高野浩一 君） 統計調査に関することでありますので、国が責任を持ってやっていることでございますけれども、議員に御指摘いただきましたように、それぞれ考え方があろうかと思っておりますので、その辺の確認につきましては、県を通じてとか、いろいろ手法はあると思っておりますけれども、話はさせていただければと思います。

以上でございます。

○議長（米山享範 議員） 19番山下議員。

◆19番（山下いづみ 議員） これは市で作ったものではないので、国がこれを作り、配布しました。では、終わったときにどうなるのかということを考えていたら、簡単にこのような形にはならなかったのではないのかなと思います。ですので、市としては、こちらは扱った自治体ですから、それはぜひ県を通してでも、何かしらの形で国のほうに感想なり意見をしっかりと述べてほしいと思いますので、よろしく願いいたします。

次に移ります。富士ジュニアオーケストラを民間ボランティア運営から公営にしてはいかがかですけれども、市長から答弁もありましたけれども、富士ジュニアオーケストラの方は、育成に関しても、国際親善に関しても、本当にいろいろとやっていただいている。その結果、2018年には、ありがとうということで富士市教育文化スポーツ奨励賞という賞を差上げたということは分かっております。そして、公営に関しては、例えば会場確保であるとか金銭的なことは今までよりもよくなるだろうというようなこともありました。ですけれども、今まで築いてきたその中の柔軟性ということがありますけれども、少なくとも公営に関して、実際のところ、何がすごく課題だと考えているのでしょうか。

○議長（米山享範 議員） 市民部長。

◎市民部長（有川一博 君） 何が一番の課題かというのは市長答弁にあったとおりでございまして、まず、公営にすることで、メリット、デメリットがあるかと思っております。メリットについては、議員の質問にもございましたとおり、現在、ボランティアとして行っている事務局の負担が軽くなるのかなということが一つ大きく挙げられるかと思っております。それ以外にも、会場の使用についても、予約自体は、予約の手間とか、事務局の方が行っていることについては市のほうで行えるのかなとも考えております。

ただ、市民の豊かな柔軟な発想でというのがなかなかできないというのは市長の答弁にもございましたけれども、例えば公営になったときに民間の企業、営利企業といいますか、そういうところのイベントに参加だとか、あと講師の選定だとか、そういった部分において一定の——全部できなくなるということではないですけれども、市としての立場というものがございまして、そこから辺も若干拘束といいますか、硬直性が高まってしまうのかな、柔軟性が阻害されるのかなとは考えております。

あと、予約につきましても、公営になったからといって、予約の事務はできるんですけれども、逆に市の事業であっても、実際は、まず民間の方に予約していただいて、空いている日時の中から予約しているような状況になります。例えば市長表彰だとか、成人式とか、そういう特別なビッグイベントは別といたしまして、一般の市の事業については、そういった形で民間の方を優先して、その後に空いているところを予約したりということで、御希望どおりの日がなかなか取れないかなという懸念はございます。

以上でございます。

○議長（米山享範 議員） 19番山下議員。

◆19番（山下いづみ 議員） 予約のことは民間優先というところもありますけれども、今、富士市文化連盟でいろいろな大きな文化祭があったりとか、1年に1回ですよ。富士ジュニアオーケストラも定期演奏会は1年に1回。だから、今回のこれは会場を早くに取れるようになりたいから公営にという考えではないんですけれども、これに関してはまたしっかりと……。今までは、取りあえずは取れている、ちゃんと順番に並んで取れているということはあります。

このことで、それ以外に柔軟な発想と協賛の企業の話もありますけれども、日本全国には公営、市が運営しているジュニアオーケストラというものが幾つかあります。その中の幾つかにお話を聞いたんですけれども、民間から公営、公立になって柔軟性がなくなったとか、窮屈になったとかという声は聞こえませんでした。実際のやり方としては、長く続いているところというのは市がもちろん主体なんですけれども、大体文化財団。富士市も文化振興財団がありますけれども、そういうところとしっかりと連携をしてやっているということです。長いところでは、もう40年、50年続いています。ですので、まず、そのまちに芸術文化の振興財団があるのか、ないのかということもまた一つの要素でもあるし、市の政策として音楽都市構想であるとか、文化芸術をしっかりと展開するであるとか、その方針なんです。ということで、これは、会場、金銭的なことは置いておいて、まず、方針としてどうなのかということになってきます。

そうしますと、これはちょっと市長にお話を聞きたいと思います。今、少年少女合唱団は市の公営ですけれども、また、こういうジュニアオーケストラは今まで国際親善にも寄与され、要になってやっていっていただいて、14年継続されていますけれども、方針としたらどう考えるのでしょうか。

○議長（米山享範 議員） 市長。

◎市長（小長井義正 君） 今、少年少女合唱団の例が出されましたけれども、これと同じように比較できるかどうか。生い立ちというか、これまでの経緯は十分確認した上でないと比較はちょっと答えられないのかなと思っております。

いずれにしましても、ジュニアオーケストラの皆さん方も市の公的な事業にも非常に積極的に参加していただいていますし、我々の期待にも大いに応えていただいていることは明らかでありまして、議員がおっしゃることも非常によく理解はするところでもありますし、こういう方々が地域で活動してくださっていることが、やはり青少年の健全育成も含め、地域の文化芸術の振興にもつながっているといった認識も同じように持っているわけでございます。

いずれにしましても、果たして公営でやっていくべきかどうかといった部分の議論はまだこれからしていかなければならないと思いますし、また、当事者の皆さん方から現状の具体的な課題というんでしょうか。今抱えていらっしゃる課題というか、そこら辺は実際にお話をさせていただいて、どういった形でその課題が解決できるか、できないか。まず、その議論から始めていくということが大切ではないかな、今はそのような感想を持っております。

○議長（米山享範 議員） 19番山下議員。

◆19番（山下いづみ 議員） このことに関して、いろいろな相談とか話を聞いてほしいということで、実は3年前に担当課のところ運営スタッフの方と一緒に行って、いろいろと話を聞いていただきました。その後はできることからということで、しっかりと言葉を受け止めてくださって、今この3年が過ぎたということです。その3年を過ぎていって、また運営という現実のところでもいろいろと大変なことも出てきているということです。そうしますと、今回はこのように、ああ、これは人がここにいるからできるねとか、結局、会場を早く借りられますよ、借りられませんかではなく、方針として、市として考えて、公営にできるのか、できないのか。次の話としてはこれになるのかなと思ひまして、一般質問させていただきました。富士ジュニアオーケストラというのは、青少年の育成ということで家族――今、議場にも保護者として関わっている方がいらっ

しゃいますけれども、保護者の方の協力体制も本当に長年とてもよく、また、OB、OGも戻ってきて、率先して協力をする。そのような人間関係もとても構築されているということで、こういう文化も引き継いでいただければなと思います。

あと、音楽の質といったら、これは最高だと思います。今回、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた開催100日前イベントのときにラトビアのエギヤ次席官も聴かれていました。ここにいる議員の皆さんもお会いしたので分かっていると思いますけれども、その方も聴かれて、本当にすばらしかったと。そして、3か国の音楽が聴け、興味深かったこともそうですけれども、チャイコフスキーなど難しいものもやっていますよとか、編曲もすばらしかったとか。ラトビアというのは歌と踊りの祭典がある、音楽、芸術の国ですよ。そういう方が富士市に来て、これは、民間なのか、公営なのかは置いておいて、富士ジュニアオーケストラというのはすばらしいなという感想を持っているわけです。公営で持っているジュニアオーケストラの目的といったら、今日は市長も私も何回も同じことばかり言いますが、青少年の育成、国際親善、また、その地域の文化、芸術に寄与する、文化推進に寄与しているということで、これに関して富士ジュニアオーケストラというものが存在をする。この方針としたら何なのかといいますと、多くはそのときの市の政策、そして首長の方針で続いています。他市で続いているところでは、通常首長が替わると、前の首長がつくったものだから、もう自分はやらないというふうになくなる事業もあるそうです。ただ、こういうジュニアオーケストラのことにしましてはそのようなことはないとおっしゃっていました。今後のことは、また市長もぜひお時間を取って富士ジュニアオーケストラのスタッフの方とお話をさせていただきたいと思いますが、これからの展望としましたら、全国の公営のジュニアオーケストラが3年に1度集まって、演奏会というのがあるそうです。今は9団体、来年になったらもう1団体増えて、今度は10団体になると言っているそうです。これは新潟市のジュニアオーケストラが言い出して、やっているということです。展望とすれば、これからますます国際親善、国際的な友好は広がっていくことだと思います。そして、そこには音楽があり、青少年の育成がありということで、ぜひやっていただきたい。

最後に、1つはコロナ禍でどうだったのか。人が移動できないで、何かというときに心のよりどころであったり、元気をもらったというのは皆さんも感じていると思いますけれども、文化芸術ですよ。ユーチューブでも、子供たちのオーケストラであるとか、プロのオーケストラであるとか、いろいろな音楽が流されて、自分の生きる喜び、力をつけたということがあります。富士市には幸運なことに、ゼロからの出発ではなく、民間の方々がボランティアで14年間築き上げてきた富士ジュニアオーケストラというのがあります。こういう宝を市として継続していけるような道筋になっていったら本当にすばらしいなと思いますので、市長、副市長も含めて、また市の担当の方は、ぜひ運営スタッフの方とお話しさせていただきたいと思います。

以上で質問を終わります。